

03

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第3回地域夢・未来カフェ in 加茂

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため、「第3回地域夢・未来カフェ in 加茂」が開催されました。

日時：2013年1月25日（金）19:00～21:00

場所：加茂ふれあい会館

参加人数：市民11名+市WGメンバー2名

当日のスケジュール

| | |
|-------|--------------------|
| 19:00 | 開会 |
| 19:05 | 当日スケジュール説明・ふりかえり |
| 19:10 | イントロダクション |
| 19:20 | テーブルワーク（活動案のとりまとめ） |
| 20:35 | グループ発表 |
| 20:55 | 今後の流れの説明 |
| 21:00 | 閉会 |

当日スケジュール説明～イントロダクション

開会のあいさつの後、前回のふりかえりと当日のスケジュールの説明がありました。その後、アイスブレイク「喪失体験」を行いました。フセンに「友人」「健康」「趣味」「お金」「役割」「仕事」という6つのキーワードを書き、ジャンケンに負けると1枚ずつ破っていくゲームです。残った付箋は人によりさまざまで、参加者の中でも価値観が異なっていることを体感しました。また、6つのキーワードは、年をとるごとに失っていくものですが、地域活動等を行うことで新しく得ることもできるという話がありました。



テーブルワーク～グループ発表

各グループのテーマ

- Aグループ：地域の歴史や伝統を活かしたまちにする
- Bグループ：地域の環境が豊かなまちにする
- Cグループ：地域活動（自治会等）の活性化

テーブルワークでは、第2回に引き続いて活発な議論が行われ、最終的な活動案がとりまとめられました。できあがった活動案について、各グループから全体に向け発表しました。

Aグループでは地域の伝統を活かしたまちづくりの方法について「ガイドブックの作成」や「案内人の育成」など、Bグループでは地域の環境を豊かにする方法について「ごみの減量」など、Cグループでは地域活動の活性化について、「マンションへのアプローチ」などが、発表されました。

最後に総合政策部の本荘部長より講評と3回にわたった地域夢・未来カフェの閉会のあいさつがありました。



Aグループ 地域の歴史や伝統を活かしたまちにする

○ガイドブック作成

- ・新しいガイドブックを作成する
- ・加茂遺跡・鴨神社と大学のゼミや研究者とコラボする
- ・大学のゼミ室などの新しい感覚の歴史が必要である
- ・関西大学の考古学で勉強会がある

○語り部・案内人の育成

- ・見た目が大事である
- ・ハッピーなど、江戸時代の格好で案内
- ・最低腕章が必要である
- ・有償ボランティアで活動できるように人件費が必要である
- ・語り部のボランティアを募集する
- ・市の担当課の考えを明確にしないとダメである

○遺跡の再現

- ・遺跡外に見えるような取り組み
- ・遺跡公園に、竪穴式住居で目に見える形で再現する
- ・材料費がかかる
- ・とりあえず、こじんまりしたものをつくる
- ・ジオラマのいいものをつくる

○サークルをつくる

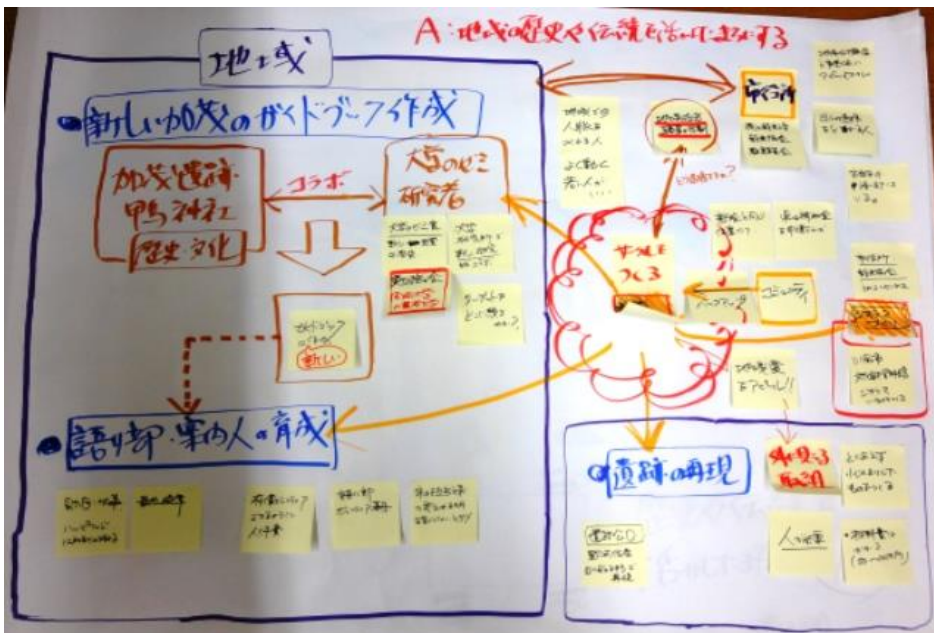
- ・コミュニティの部会と同じ位置づけ
- ・コミュニティがバックアップする
- ・地域愛をアピールする
- ・県の補助金を申請すればできるのではないかな

○地域担当職員への要望

- ・地域で人脈を作れる人
- ・よく動ける若い人が良い
- ・横との連携が取れる人

○その他

- ・地域分権制度を市全体にアピールしてほしい



Bグループ 地域の環境が豊かなまちにする

○最明寺川

- ・ 日常的な清掃活動をしている
- ・ 公衆トイレは設置予定である
- ・ 兵庫県のアダプト事業がある
- ・ 道路管理課による花いっぱい大作戦がある
- ・ 川底掃除や花植え、花壇づくりなどを行っている
- ・ 花の日常的な維持管理をしている
- ・ 花の種類は住民のほうで選べる
- ・ 花植えは市が認定、花代は市が補助している

- ・ 自治会でゴミ分別の勉強会を行う

○予算について

- ・ 報告を簡素化してほしい
- ・ 自治会が市に人数の申請を行う
(例：クリーンアップ大作戦のごみ袋など)
- ・ 機材・資材の提供のほうが良い
- ・ 自治会への市からの補助を増額できないか
- ・ 「予算がない」「自治会費が高い」を理由に、活動しない人、退会する人が増加している

○ゴミ減らし

- ・ 子ども会による月2回の公園清掃がある
- ・ 老人会がゴミ拾いしている
- ・ 自治会有志による前川の清掃をしている
- ・ 市のクリーンアップ大作戦
- ・ 清掃道具は自治会で持ち回りで管理している
- ・ 持ち回りは管理が大変なので、持ち寄りがよい場合もある

○地域全体の合意形成について

- ・ コミュニティ主体で発信するべきである
- ・ 参加してみたら、意識づけできるのではないか
- ・ 加茂小コミュニティが受け皿
(小・中学校も入っている)
- ・ コミュニティは各団体へ向けて発信できる

○後継者問題について

- ・ 環境問題は煙たがられている
- ・ 活動周知や育成講座が必要である
- ・ 目に引くデザインのチラシが重要である
- ・ 市の掲示板は、情報を探すときにしか見ないかもしれない



Cグループ 地域活動(自治会等)の活性化

○マンションへのアプローチ

- ・マンション1棟でまとめて入ってもらう
- ・管理費に自治会費を上乗せしてもらう
- ・建築段階で自治会への加入を依頼する
- ・不動産へのアプローチ
- ・オートロックがあり、各戸へのアプローチは難しい
- ・管理組合の了解を得て個別にアプローチする
- ・消防訓練はマンションの人も関心はある

○自治会加入のメリットをどう伝えるか

- ・ゴミ出しは自治会を通さないとできないようにする
- ・ゴミ出しのルールを守らない人にどう対処するか
- ・個人ではできないが、地域でなら要望ができる
- ・運動会への参加
- ・地域行事への参加
- ・ツアーバスに自治会で参加するなど、安く楽しい行事
- ・「保険をかける」ようなものである隣近所の助け合い
- ・自分たちで地域を治める意識が生まれる
- ・メリットを伝えるにはPR活動が必要である

○高齢の方へのアプローチ

- ・一人世帯の高齢者が増加している
- ・健康面の不安がある
- ・役や当番ができないので辞めている方がいる
- ・年齢によって役の免除をするとやる人がいなくなる

○ニーズをしっかりと反映する

- ・今の行事には参加したくない(魅力や面白さ)
- ・どんな行事なら参加してみたいか⇒趣味を通して仲間ができるサークルを増やす(グランドゴルフなど)

○行政に頼みたいこと

- ・自治会加入を建築条件として確立させる
- ・不動産業者への働きかけをしてもらう
- ・PR やアンケートなどの費用を負担してもらう
- ・消防訓練へのサポート

○その他

- ・自治会の運営も柔軟に対応していく

